

topic
1

ミャンマー インディン村調査旅行 鈴木研究室

2012年12月末と2013年10月半ばの2回にかけて、ミャンマーのインレー湖周辺の伝統的な農村集落であるインディン村に調査に行ってきました。インディン村は住居だけでなくパゴダ・僧院・学校・広場などで構成されており、何より定期的な市が開かれることによって賑わいある姿へと変わる村です。



マーケットの様子

一般的には高床式住居で生活していますが、建築材料の多様化により床下部分をブロックで囲い居室化し、2階建ての住宅が増えているという傾向がみられました。

彼らは自分たちが住みやすいように工夫をし、その時代その時代に適応している姿というものを目の当たりにしてきました。

集落調査では通訳の方を介してヒアリング調査を行いました。どの住宅も快く調査を引き受け、必ずお茶を出してお話をするというミャンマー人のおもてなしの心には驚きました。

私たちにとって未知の国であるミャンマー農村部での暮らしの一部をご紹介します。



インレー湖の水上集落

インダー族



ヤンゴン最大のパゴダ



パウンドウーパゴダ祭り

インディン村



高床式住居



2階建ての木骨ブロック住居



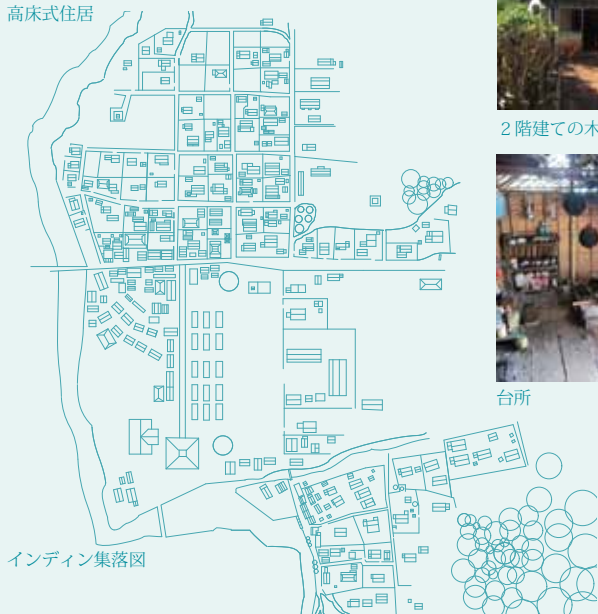
台所



居間と仏壇



シャン族



インディン集落図

課題内容

文京区関口台町小学校は、本学から最も近い避難所であり、本学周辺の町会が避難する所です。そこでは避難所を運営するための住民の自主的な努力が続けられています。しかし課題はまだすべてが解決されたわけではありません。そこで、実際にこの避難所がかかえる問題点を、グループで討論しながら発見し、改善策を提案して実際の地域に貢献する課題を行いました。

グループディスカッションとプレゼンテーションを通じて、話し抜く、アイデアを出し合う、合理的な解決策を考える、実際に提案するというコンセプトを立てて、実習を行っています。

いつもグループの討論のスタートにはしばしの沈黙がありますが、いつの間にか役割分担がなされ、リーダーが生まれ、いろいろ熱心に話し合っているという感じで変化していきます。2・3年が同じ授業でプレゼンを競っていくのは今年の特徴。いろいろな考えがあって、私たちも大いに刺激を受けました。

そして、提案された項目は多岐にわたり、避難所運営協議会の会長・副会長が授業に参画して熱心に質疑応答、改善策を聞き取っていきました。

今年度は、特に多忙な文京区長の日程を確保できたので、授業にお越しいただきました。文京区の防災課長も参加してくださり、お二人からのお話もうかがう機会が得られました。若い皆さんの改善策の提案は、実際に区長と区の防災課に伝わり、何かに実現されるのでは？と期待しているところです。大学生のフレッシュな提案力に、町会の役員の方々の皆さんも感激しておられました。



避難所運営協議会
会長 浅野氏 副会長 下山氏

避難所問題に積極的に取り組んでいらっしゃる、関口台小学校避難所運営協議会の役員の方にプレゼン。すでに取り組んでいることや、実際の現場で起こるであろう問題点などのお話も交え、学生がプレゼンした案に対して貴重なご意見をいただきました。



文京区長 成澤廣修氏

文京区長と区防災課、町会のみなさんを前にプレゼン。最後に、文京区長から講評と文京区での避難所の状況についてお話いただきました。また、震災時、学生のみなさんには避難所の運営やボランティアなどに積極的に参加してほしいとお話がありました。区の防災課長からの講義では対策のポイントが解説されました。

住居学科スタッフよりひとこと

2013年度3月末に退職されました。

小池 孝子 助教



このたび、6年間助教として勤務した日本女子大学を退職いたしました。在任中は、皆さんの学生生活をサポートさせていただくことを通じて、私自身もたくさんのことを学ばせていただきました。どうもありがとうございました。

私は住居学科に学士入学で入学し、修士課程・博士課程で学んだ後に助教となりました。社会人経験を経てから学びの場に戻ったわけですが、本学の大学院にはそうした方も多くいらっしゃいます。住居学というものは、私たちの人生におけるいくつもの局面でその学びを活かすことのできる、大変意義深いものだと感じています。

皆さんはこれから住居学科を卒業しさまざまな道に進まれることと思います。住居学科には本当にいろいろな分野で活躍されている先輩が大勢いらっしゃいます。皆さんも住居学科で学んだことをベースに、それぞれの道でご活躍されることを卒業生の一人として応援しています。

新しく住居学科スタッフに加わりました。

宮原 真美子 助教



4月に着任致しました宮原真美子と申します。2005年に住居学科を卒業、2008年に東京大学大学院工学研究科建築学専攻修士課程を終了後、石本建築事務所という組織設計事務所を経て同大学院博士過程で学位を取得しました。修士の頃から、アメリカで行なわれているホームシェアという高齢者と若者の異世代間シェア居住の研究を行ってきました。広義なシェア居住の中でも、オーナーの自宅を活用したシェア居住に興味を持っています。若者単身者だけではなく高齢単身者も含めて、いろんな世代がごちゃまぜに“住むこと”から、これからの住環境について、みなさんと一緒に学んでいけたらと思っています。

また、建築は、単に物をつくる楽しみだけではなく、建築を通して社会や文化などたくさんのことを学ぶ(知る)きっかけのある面白い学問です。みなさんが、建築を通して学ぶことの楽しさを見つけるお手伝いをできたらと思っていますので、よろしくお願ひします。



6月15日のオープンキャンパスでは、高校生を対象とした住居学科紹介のみではなく、大学院コーナーを設け、各研究室のプロジェクトや研究内容についても紹介予定です。大学院について知りたい学生さん、大学院進学を検討している学生さんにとって、実際の大学院生活の雰囲気や研究・プロジェクト活動内容を知る良い機会だと思いますので、大学院に興味がある方は、百年館104教室にお越し下さい。お待ちしております。

詳細：http://www.jwu.ac.jp/nyushi/event/open_campus/